

## 世界にひとつだけの仕事 「菊川工業の具現化する力」について設計者に聞く

菊川工業株式会社



株式会社交建設計  
設計本部第2設計部 主任技師  
安食公治

### ◆駿台予備学校柏校 輝きの表現

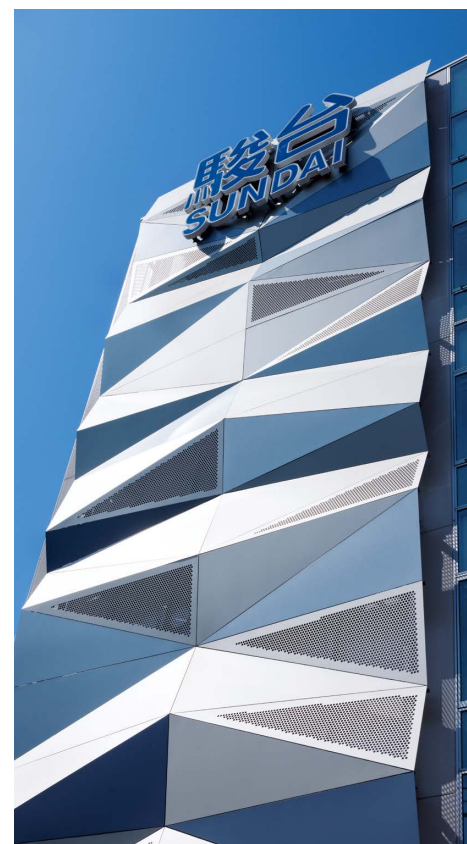
駿台予備学校柏校の明るくオーラを放つ校舎の外観テーマは「輝き」です。輝きをどう実現させていこうかと考えた際、ダイヤのブリリアントカットが頭に浮かびました。

ダイヤは光の反射や屈折といった光学的特性をもった鉱石ですが、原石のままではあの光り輝くダイヤではありません。進入した光が内部で全反射して放たれるように、数学的見地に基づき最も美しく輝く型を見出したカット方法で加工されてこそ、ダイヤの輝きが発揮されます。そんなブリリアントカットの外装を目指しました。外装のデザインにあたり、まず3点で面を構成する三角形のパネルの使用を決定しました。台形のように角を4点にすると同一面上にねじれが生じるためです。さらに、三角形パネルの集合体の出寸法を1角ごと不均一に変えることで複雑な凹凸形状とし、ダイヤのような「輝き」を実現しました。

パネル1面あたりのサイズは、高さは小さく、幅は極力大きいものと考えました。全体のバランスもさることながら、太陽光に照らされた際に高さ方向に対して多くの面を用意した方が、より複雑な輝きが期待できるからです。細かく割ったパネル高に対し、全体の視覚的バランスと母屋からの下地出し位置の制限を考慮

して横方向は極力大きなパネル幅としました。素材は外部利用が前提ですので、不燃材料であり、錆にくく、構造負担を抑えるための軽量化、そして輝きをもつ素材を考え、アルミ板を選びました。また教室への採光を確保するためにパネル材にはパンチング加工を施しております。

1角ごとに異なる出寸法を伴った三角アルミ板の集合体を実現させるために、設計から施工までの一連のプロセスをもったパートナーと出会いたいと思ったのは実施設計初期の段階です。いくつかのメタルワークメーカーの方と会っては自分が考えていることを説明するのですが、あまりに複雑な形状とサイズが仇となり、力になってくれる方には出会えません。実現するのは無理なのかと諦め始めた時にふと頭に浮かんだのが、3次元にねじれた鉄のカーテンで覆われた青森駅前建つ文化観光交流施設でした。あれだけの技術をもった会社はどこなのだろうと検索した結果、菊川工業と出会いました。菊川工業の設計担当者とお会いして思い描いていることを伝えたと、具現化に向けての有効な知恵を沢山頂戴しました。例えば下地組です。不均一な傾きを伴った面材と鉛直に伸びる母屋側下地材の寸法は場所毎に離隔寸法・設置角度が違います。この複雑な状況に対して菊川工業からSUSパイプ胴縁を用いた提案を頂きました。今思い返せば、菊川工業との出会いがなければ、輝き是实现できなかったと思います。幅6mのパンチング加工を可能とする頼れる加工技術力と、経験と発想に満ちあふれた技術設計力を、今後も期待しております。



駿台予備学校柏校



青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」

### ◆初ショールーム「Studio K+」オープン

建築物の金属製内外装工事を手がける菊川工業は、創業以来86年間蓄積してきたノウハウや加工技術、仕上げや新開発した仕上げサンプルを集約し展示した、初めてのショールーム「Studio K+」を千葉県白井市のキクワテクノプラザ（千葉工場）内に、4月10日にオープンする。

問い合わせ先

菊川工業株式会社

TEL.03-3634-3231

<https://www.kikukawa.com>

